

## ひと足早く春到来。



JA筑紫女性部・フレッシュミズ学級は2月27日に、フラワーアレンジメント教室をJA本店で開催し、春らしさが溢れる作品づくりに没頭しました。

今回は、黄色のカーネーションとカスミソウ、淡いピンク色のスイートピーを使ったフラワーアレンジメントに挑戦。女性部員の八尋ひろ代さんが講師を務めました。用意された見本とホワイトボードを使って生け方のポイントを説明し、参加者は思い思いに花を活けて楽しみました。完成すると講師の八尋さんは「皆さん素敵な作品ができました。基本を意識することが大切です」と笑顔で話しました。

フレッシュミズ学級は、JA女性部員で概ね45歳未満の部員で構成。子連れでも参加できます。今後も、地域の女性が気軽に参加できるようにPR活動に努め、魅力ある企画で次世代の部員拡大を目指しています。

## 出荷者に春夏野菜を説明



JA筑紫は2月23日と24日の2日間に、2016年度ゆめ畑春夏野菜講習会を4地区で開催しました。営農生活部農業振興課の職員が講師を務め、今後の栽培の注意点や、農薬の使用方法などについて説明しました。

直売所ゆめ畑の出荷者134人が参加しました。参加者はメモを取るなど、知識習得に努めていました。

## 農業新聞・家の光の高普及率めざす



JA筑紫は2月18日、本店で「第13回 家の光3誌・日本農業新聞購読者の集い」を開きました。教育文化活動の一環として、家の光3誌と日本農業新聞購読の定着化と高普及率を目指す目的で毎年開いています。

購読者ら281人が参加。記念講演では、僧侶・華道家・アナウンサーの川村妙慶さんが「心の荷物をおろす知恵」と題し講演しました。

## 農産物を活かした自慢の料理を披露



JA筑紫女性部農業関係グループは2月16日、営農センターで「女性部農業関係グループ委員会」を開きました。季節の農産物などを使った手作りの料理22品を持ち寄り、試食会を行いました。

グループは、野菜・加工品作りの技術向上を目指そうと、農家の女性を中心に活動しています。この日は、グループのメンバー25人が参加。それぞれが持ち寄った自慢の料理を味わいながら、レシピや味付けのコツなどの情報交換を行いました。参加者は「それぞれの料理を味わい、大変勉強になった。ぜひ挑戦してみたい」と笑顔で話していました。

## いちご農園と協力。洋菓子店オープン



福岡県筑紫野市に、採れたての完熟いちごを使った洋菓子店「シュクレフローズ」が2月11日にオープンしました。いちご狩りが楽しめる農園「ストロベリーフィールズ」が隣接し、子連れ客や観光客で賑わっています。

店を経営するのはシェフパティシエの石橋貴徳さん。海外や東京などでお菓子作りの腕を磨きました。JA筑紫が六次産業化の生産・加工・販売をサポートする「六次産業化支援資金」などを活用して店を開きました。

隣接するいちご農園は、石橋さんの父・徳昭さんが代表を務める「株式会社ちくしの農園」が運営し、「あまおう」や「白いちご」など多種類の品種を栽培。福岡市内から約20\*キロメートルの距離は、アクセスの良さから海外の観光客も多く、完全予約制の人気の農園です。

店のスイーツは、いちご農園で栽培する約5種類のいちごを使い分け、それぞれの味を活かした商品開発に力を入れています。採れたてのいちごがたくさん入ったスイーツは、誰もが幸せになる味。石橋さんは「たくさんの人に喜んでもらえるように、これからも頑張っていきたい」と意気込みを話しました。

## 味噌づくりで地産地消を促進

ゆめ畑那珂川店は2月11日、地産地消の理解促進や地元農産物に愛着を感じてもらう目的で「消費者交流会」を開催。ゆめ畑利用者や地域住民を対象に「味噌づくり体験」を開きました。交流会は、ゆめ畑運営委員会・ゆめ畑出荷者の協力のもと、消費者と交流を通して意見交換を図る目的で開いています。

当日は、親子連れなど26人が参加。ゆめ畑出荷者の井上ユキエさんを講師に迎え、地元農産物を使った味噌づくりに挑戦しました。参加者は、楽しそうに作業を進め、完成すると「初めての体験で面白かった。とても勉強になった」と好評でした。ゆめ畑那珂川店の緒方一寿店長は「今後も、地産地消の活動を積極的に行っていきたい」と話していました。

## 健やかな社会づくりを目指す



JA筑紫女性部は、社会福祉活動の取り組みの一環として、社会福祉法人 那珂川町社会福祉協議会に介助式車イスを贈りました。贈呈品の車イスは、女性部が中心となって約2年間で集めた「アルミ缶プルタブ」を資金源に購入されました。

贈呈式には、協議会の坂井俊明事務局長とJA筑紫女性部の三宅静代本部長、JA生活福祉課職員が参加。新品の車イスが手渡されました。三宅本部長は、「皆さんにたくさん利用してもらえたら嬉しいです。」と笑顔で話していました。

JA筑紫は、金融店舗等にペットボトルキャップとプルタブ収集箱を設置しています。今後も、JA筑紫女性部を中心に継続して取り組み、健やかな社会づくりを目指していきます。

## 2JA合同枝肉共励会で技術向上を図る



JA筑紫肥育牛部会は2月9日、JA筑前あさくらの肥育牛部会と一緒に、太宰府市都府楼南のJA全農ミートフーズ㈱で「JA筑前あさくら・筑紫肥育牛部会合同枝肉勉強会共励会」を開きました。共励会は、肥育技術向上を目指すとともに、2JA間の交流を図る目的で毎年開催されます。

今回は、黒毛和種11頭が出品され、関係者らは専用冷蔵庫内で各枝肉の色ツヤやサシの具合などを真剣に確認。生産者たちは、念入りに情報交換を行いました。

表彰式では、JA筑紫の(有)三宅牧場が金賞を受賞。出品した枝肉は枝肉重量512.1キログラムで、肉質等級はA5、BMS(脂肪交雑)は最高ランクのNo.12の「博多和牛」となりました。

JAの担当者は、「今年は出品頭数が少なかったが、生産者にとって大きな励みになる良い結果が出た。」と笑顔で話していました。

## 次年度の農政や普通作・園芸振興を説明



JA筑紫は20日まで、管内4市1町70力所で平成29年度営農経営座談会を行っています。座談会は、組合員に対し、次年度の農政や普通作、園芸振興などについて、各行政担当者と共に説明。組合員とJAの意見交換の場として、相互の報告から今後の検討課題を考えます。筑紫野市塔原地区の座談会には、組合員、行政担当者、JA職員など19名が参加しました。JAからは、昨年のも米生育状況報告や、今年の作付けに向けた肥料・農薬の使用方法などを説明。また、農作業事故防止を呼び掛けました。